

日本家庭科教育学会 2013（平成 25）年度例会

日本家庭科教育学会
会長 大竹 美登利

日本家庭科教育学会 2013 年度の例会を下記の要領で開催いたします。
会員の皆様、どうぞ多数ご参加くださいますようご案内申し上げます。

日時：2013 年 12 月 7 日（土） 13:00～17:00（受付は 12:30 から）

場所：東京学芸大学

* JR 武蔵小金井駅・北口より 京王バス⑤ 小平団地行き、約 10 分 「学芸大正門」下車

* JR 国分寺駅・北口より 徒歩約 20 分

タイムスケジュール

受付	12:30～	家庭科棟入口
研究発表	13:00～15:00	W110・W201・W301・W302 講義室
シンポジウム	15:10～17:00	W110 講義室

理事会 10:00～12:00（総合教育科学研究棟 第 3 号館 105）

地区会代表者会議 17:15～19:00（総合教育科学研究棟 第 3 号館 105）

- ★研究発表の発表者でパワーポイントご使用の方は、12:30 から 13:00 までの間に各会場にてデータのインストールを行ってください。
- ★口頭発表の時間は 15 分、質疑応答の時間は 5 分です。
- ★口頭発表のための資料は、パワーポイントおよび印刷物とします。

I. 研究発表（13:00～15:00）

第 1 会場（1 階 W110 講義室）

座長：山田 綾

1-1 高等学校家庭科における調理理論・実習・実験
を組み合わせた授業実践
—マヨネーズを教材とした試み—

○廣瀬いずみ（東京家政大学大学院(院生)）

1-2 調理実習における意思決定能力育成の可能性
—特別な支援を必要とする児童・生徒において—

○内野紀子（日本女子大学）
佐藤文子（植草学園大学）
庄司美子（千葉市立轟町小学校）

1-3 食育推進計画による伝統野菜普及の視点
でとらえた地域の家庭科教育

○小林未佳（新潟県立栲尾高等学校（非））
仙波圭子（女子栄養大学）

座長：川上雅子

- 1-4 実践的推論プロセスに基づく米国家庭科の授業
—地域と連携した「食」の問題解決プロジェクト—
○鈴木真由子（大阪教育大学教育学部）
荒井紀子（福井大学教育地域科学部）
綿引伴子（金沢大学人間社会研究域学校教育系）
- 1-5 福島原発事故以降におけるE S Dの視点検討
—中学校家庭科単元「日本の魚食」の分析を通して—
芝田陽子（愛知教育大学附属岡崎中学校）
○山田 綾（愛知教育大学）
- 1-6 教科書に見る食物アレルギーの検討
○青木香保里（愛知教育大学）
荒井眞一（札幌大谷大学）

第2会場（2階 W201 講義室）

座長：財津庸子

- 2-1 日本と韓国の家庭科教師における家族・家庭生活
意識及び授業実態
○鄭 暁静（東京学芸大学連合学校教育学研究科
（院生））
大竹美登利（東京学芸大学教育学部）
- 2-2 高校生の家庭形成意識と家庭科教育
○野中美津枝（茨城大学教育学部）
- 2-3 家庭科教育における生涯を見通す力を育む授業の検討
○岡崎真弓（気仙沼市役所（嘱託職員））
志村結美（山梨大学教育人間科学部）

座長：高橋桂子

- 2-4 小学校家庭科におけるコミュニケーション能力の育成
○佐藤萌未（御殿場市立原里小学校）
志村結美（山梨大学教育人間科学部）
- 2-5 高校生・大学生の恋人とのコミュニケーションの
実態調査
○安東知子（兵庫教育大学大学院学校教育究科
（院生））
永田智子（兵庫教育大学大学院学校教育研究科）
- 2-6 家庭科教員を支援するインターネットの活用
—高等学校家庭科教員を対象とした質問紙調査—
○山本亜美（兵庫教育大学大学院（院生））
永田智子（兵庫教育大学大学院）

第3会場（3階 W301 講義室）

座長：得丸定子

- 3-1 学校家庭クラブ活動の指導方法と教育効果
—ナラティブ・アプローチによる
ライフヒストリー分析からの提案—
○藤原容子（兵庫県立西脇高等学校）
永田智子（兵庫教育大学大学院）
- 3-2 高等学校家庭科ホームプロジェクトの指導法の工夫
—衣生活分野に着目して—
○天本匂子（福岡教育大学教育学研究科（院生））
長山芳子（福岡教育大学教育学部）

3-3 高等学校家庭科の必修科目と生徒の生活行動 ○岩崎香織（國學院大學栃木短期大学）

座長：甲斐純子

3-4 共生社会の実現をめざした「人の多様性」の理解
に関する授業実践 ―中学校における試み― ○富田道子（東京都私立東洋英和女学院小学部
（非））

3-5 大学生の実践的授業力向上の事例研究
―家庭科教育におけるプリンの授業の授業研究― 伊深祥子（愛知教育大学）
○服部美香（明正小学校）

3-6 家庭科におけるキャリア教育の可能性 ○真中智世（山梨県立韭崎高等学校（非））
志村結美（山梨大学教育人間科学部）

第4会場（3階 W302 講義室）

座長：角間陽子

4-1 生活場面で実践できる力の調査の設計 ○吉本敏子（三重大学教育学部）
小川裕子（静岡大学教育学部）
星野洋美（常葉大学教育学部）
室 雅子（椋山女学園大学）
安場規子（三重県伊賀市立島ヶ原小学校）
吉岡良江（三重大学教育学部附属中学校）
吉原崇恵（元静岡大学）

4-2 中学校家庭科の新学習指導要領をめぐる現状と課題
について ○星野洋美（常葉大学教育学部）
―静岡市の家庭科担当教員への調査を踏まえて―

4-3 消費行動における課題の「明確化」に着目した
批判的思考力を育む授業の検討 ○土屋善和（東京学芸大学大学院連合学校教育学
研究科（院生））
―コーヒーを題材として― 堀内かおる（横浜国立大学教育人間科学部）

座長：吉本敏子

4-4 子どもの消費文化に関する教育的ニーズ
―小、中、高校教員意識調査より― ○大本久美子（大阪教育大学教育学部）
吉井美奈子（武庫川女子大学）
鈴木真由子（大阪教育大学教育学部）
奥谷めぐみ（福岡教育大学）

4-5 消費生活の学習における「永続的理解」を志向した
中学校家庭科の授業 ○角間陽子（福島大学人間発達文化学類）
小口博子（長野県諏訪市立諏訪南中学校）

4-6 中学校家庭科における消費者市民教育の授業
―バングラデシュカレーの調理実習を通して― ○財津庸子（大分大学教育福祉学部）
山平康子（大分市立滝尾中学校）

II. シンポジウム (15:10～17:00)

会場： W110 講義室

12月7日 (土) 15:10～17:00

エビデンスから考える家庭科学習の質保証

【シンポジウムの趣旨説明】

「生活やものづくりの学びネットワーク」の発足以来、ロビー活動などを通して家庭科関係者以外の方々に家庭科教育の必要性をアピールしてきた。話をすると、ほとんどの方から一定の理解を得られる。しかし、さまざまな要因が絡み家庭科の授業時間増にはなかなか結びつかないもどかしさもある。困難は多いが、今こそ地道な教育実践とアピール活動を積み上げていく必要がある。家庭科を内外に広くアピールしていくために、エビデンスが重要になっている。学会としても、今年度からエビデンス収集に関する「課題研究」を立ち上げ、集中的に取り組んでいく予定である。それに先立ち、今回以下のようなシンポジウムを開催する。各氏からご報告いただき、その後フロアを交えて討論を行い、学会としてまたグループや個人として、どのように取り組んでいけばよいのかを一緒に考えていく場としたい。

【シンポジスト】

曾我部 多美氏 (全国小学校家庭科教育研究会会長)

小谷野 茂美氏 (前・全日本中学校技術・家庭科研究会副会長)

望月 昌代氏 (文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官)

岡 陽子氏 (佐賀県立牛津高等学校校長)

【コーディネーター】

志村 結美氏 (山梨大学大学院准教授)

参加費： 正会員 1,800円 学生会員 1,000円
 非会員 2,000円 学生非会員 1,500円

上記に関する問い合わせ先： 日本家庭科教育学会事務局

〒112-0012 文京区大塚 4-39-11 仲町YTビル3階

Tel & Fax 03-3942-7885

E-mail kateika@amethyst.broba.cc